

萩ジオパーク

推進協議会だより vol.129

萩ジオパーク推進協議会
| 2025年11月30日発行 |



〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765

☎ 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 <https://hagi-geopark.jp>

📘 <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

📷 @hagi_geopark

多くの出前授業・講演に対応しました！

10月30日、通信制高校の萩明倫館高校からのご依頼をいただき、萩ジオツーリズム協会のみなさんと一緒に生徒さん向けの現地学習プログラムを実施しました。萩城址周辺を舞台に、石垣に注目したクイズラリーや、砂浜に出での景観の観察を通し、火山の活動が作り出した大地の特徴を活かした萩の人々の暮らしや歴史に触れていただきました。最後には、その代表例でもある萩焼を使って、各自がセルフで野点を楽しんでいただきました。秋の夕暮れ時、萩の自然と文化が重なる感動的な時間となりました。



先月に引き続きこの1ヶ月も多くのお声がけをいただきました。ご依頼の内容は地学分野に限らず文化財・地域の歴史・産業など、多岐に渡ります。

10/25 萩まちじゅう博物館・萩学講座：萩焼が生まれる大地

10/26 美祢市自然保護協会：龍が通った道 現地見学

10/30 萩明倫館高校・スクーリング：萩の大地と人々の暮らし

10/31 防府西高校・3年地学基礎探究：山口県の文化財から読み解く大地と人のつながり

11/ 7 越ヶ浜中学校：自然環境と人間

11/11 福栄小学校・3 - 4年総合：石州街道について

11/11 萩光塩学院高校・3年地学基礎：萩の大地と町並み

こうした学びの広がりや地域における大きな変化であり、萩ジオパークの活動がさまざまな分野と結びつき始めている証でもあります。今後も地域の皆さんと一緒に、学びの場をさらに広げ、萩の風土を次世代へつなげていきたいと思っております。

第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会に参加しました

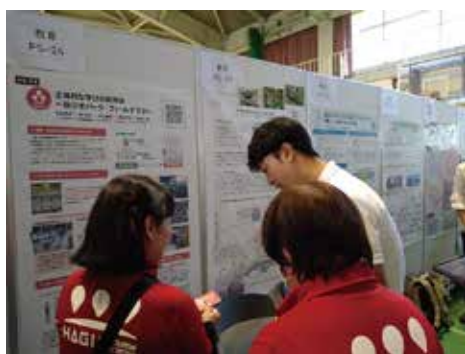
「第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会」が9月27日・28日に開催され、萩ジオパークから4名が参加しました。

本大会は「大地に学び、未来を育む」をテーマに開催されました。十勝岳は日本を代表する活火山の一つで、この地域では、過去の噴火や泥流災害を乗り越え、繋いできた営みがあります。

27日は開会式、基調講演、分科会が行われました。基調講演は、理論物理学学者で理学博士の佐治晴夫氏を講師に、「宇宙創生から未来へ～これからの地球と私たち～」を演題として行われました。宇宙創生から地球の成り立ちと、そこに住む私たちの存在について俯瞰し、今後私たちは未来へ向けてどう進んでいけば良いのかについて講演いただきました。分科会は、9つのテーマ別行われ、萩ジオパークからは、ユニバーサルデザインや海洋環境問題などの分科会に参加しました。

28日は口頭発表・ポスターセッション、パネルディスカッション等が行われました。ポスターセッションでは、「主体的な学びの共同体—萩ジオパーク・フィールドラボ」と題して、今夏に「夏休みだ！萩ジオパーク行こう」で実施し、参加者・地域住民・専門家それぞれが主体的に関わり合う「学びの共同体」として構築した「萩ジオパーク・フィールドラボ」について、ポスターを掲示し、来場者に紹介・説明を行いました。ポスターセッションでは萩ジオパークのポスターに興味・関心をもってご覧になられ、熱心にこちらの説明を聞かれた参加者もいらっしゃいました。

本大会は1年に1度、全国のジオパーク関係者が集い、日頃の活動の成果を発表したり、情報交換を行う場です。今回も全国から多くの方の参加があり、活気に満ちた大会でしたが、大会で学んだことをどのように各ジオパークで活かして行動していくかが大切です。萩ジオパークとしても、各地の取り組みを参考にしつつ、有意義な活動につなげていければと思います。



参加者の感想

萩ジオツーリズム協会 伊達千絵さん

美瑛町役場に併設された四季の塔から眺めると美瑛の町は農地が広がる丘に囲まれているのが分かります。町を歩くと塀や家の基礎、壁などに白っぽい石、美瑛軟石（流紋岩質の溶結凝灰岩）が使われています（萩では黒っぽい笠山石ですね）。十勝岳付近でおきた火山活動によって生まれた大地に向き合い、それを切り開き、活用してきた人の営みを感じとることができました。また、あちらこちらに避難所の表示があります。美瑛町、上富良野町は、およそ30年周期で噴火をくり返している十勝岳による、いつか起きる火山災害に備えているということも実感しました。



美瑛軟石の壁と避難所表示

分科会では、開催地にちなんだ「火山」実験の演示が行われました。融雪なだれや溶岩流、水蒸気噴火、火砕流等を身近な材料をつかって実験されていました。巨大でわかりにくい噴火のようすをわかりやすく示すことができ、火山の知識を持っていれば、もしもの時に助かることができます。そして、火山実験から各地域ごとの土地の成り立ちを伝える実験（ジオ実験）に発展させることで、災害について考えるツールになるのではないかとのことでした。そのような視点で、萩の大地の成り立ちを伝えていけたらと思います。

分科会は「目指せ1ジオパーク1ユニバーサルデザインコース～すべての人が楽しく地球と触れ合えるモデルコースを作ろう～」に参加しました。笠山を訪れた人から、足が悪いから上まで行けないという声をよく聞くので、何かいい方法がないかなと思いこの分科会を選びました。多様な人々が学び、感じてもらえるようなジオパークのルートが、すべてバリアフリーに対応できていなくても、バリアフリーに対応した情報を提供するマップを作ることによって、車いす利用者も安心して楽しめるようにしようという分科会でした。山口大学の西尾健先生と脇田浩二先生、学生の「高齢者・車いす利用者にやさしいジオパークの散策マップ作成」という発表の中で、萩ジオパークの笠山・つばきの館・萩城下町、Mine秋吉台ジオパークの秋芳洞・別府弁天池の事例が紹介されました。通常の車いす、補助器具のJINRIKI、電動モビリティで試走して、車いす利用者向けのマップを作り、マップ作成の手順も発表されました。萩ジオパーク等身近な名前が出てきてびっくりするとともにうれしく思いました。

今回の大会は、会場が分散してたくさん歩きましたが、大噴火の堆積物を長い年月をかけて今の美しい丘のまちなした北海道の雄大な大地美瑛に感動しました。私の中のもう一度行ってみたいジオパークの一つとなりました。



電動モビリティ

日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック研修会に参加しました!

日本ジオパークネットワークでは、全国大会や総会などのほか、地域ブロックごとの研修会も行われています。萩ジオパークを含む中四国近畿ブロックでは、10月9日（木）～10日（金）に高知県室戸市で研修会が開催され、萩ジオパーク推進協議会からは事務局長の堀が参加しました。

今回の研修会のテーマは「祭」。各地域からの参加者が事例報告やグループ論議をしたり、室戸市で行われる「神祭」の準備を見学したりし、各地の祭事にジオパークがどのように関わるか、祭事の存続にジオパークがどのように関与できるか・・・を考えました。多くの地域が華々しく規模の大きい祭事を事例報告される中、萩からは、萩博物館の清水満幸さん（生活文化専門）からの事前のご協力とご助言により、萩沖の溶岩台地の島々に伝わる、農作物の害虫を放逐する虫送り行事「農神納め」（大島）と「大山参り」（相島）を紹介しました。これらの祭事は、まさに「自然に人々が向き合って生きてきたことの証」であること、ジオパークとして祭の本質を認識し継承する必要性を話したところ、何人もの参加者から賛同の声をいただきました。

ジオパークは、大地の成り立ちと人の暮らしのつながりに目を向け、自然と調和した持続的な社会づくりを考えていく取り組みです。それらにつながるヒントが、萩市・阿武町・山口市阿東地域に伝承されている他のいろいろな祭事にも見つかるかもしれませんね。



室戸市の吉良川御田八幡宮の「神祭」で使われる花台の準備のようす

萩の虫送り行事「大山参り」にて、害虫の靈魂をまとった人形を沖の小島に封じ込める相島の人々
(画像提供：萩博物館 清水満幸氏)

『食と大地の研究所～お米の味は産地で変わる？阿東のお米食べ比べ～』 を開催します

食を切り口に“大地と人のつながり”に触れ、大地と向き合うことの大切さを学び、考察する体験型講座『地球を食べる食堂』は、今回山口市阿東のお米を食材に取り上げ『食と大地の研究所』として開催します！

米どころ・山口市阿東。けれど、同じ阿東でも、地区が違えば味も香りも変わる？異なる産地のお米を食べ比べながら、その違いの理由を大地の視点から探る実験会。参加者みんなて仮説を立てて、実際に確かめてみましょう。

【日 時】2025年12月21日（日）11:00～12:30

【集合・解散】阿東地域交流センター篠生分館（山口市阿東篠生） ※道の駅「長門峡」そば

【内 容】

○お米の産地紹介（どんな大地で、どう育てている？）

今回は阿東地域の中でも、地福地区、徳佐地区、生雲地区の3つの地区で育てられたお米を取り上げます。各地区のお米農家さんのお話を聞きながら、土地に合わせた栽培の工夫の仕方など生産の知恵やお米の特徴などに触れます。



○お米食べ比べ

各地区のお米の食べ比べを行います。産地を伏せて実際に食べてみて、どんな味なのか？どんな特徴などがあるのか？を感じていただきます。自分好みのお米が見つかるかも？

【参加費】大人1,000円、小学生以下500円

【定 員】申込先着20名

【申 込】12月12日（金）までに申込みフォームより



申込フォーム

笠山山頂展望台『鳶ノ巣』で冬の日本海を見よう！

笠山山頂展望台「鳶ノ巣」は、萩沖の日本海に浮かぶ島々の絶景をご覧いただける場所です。

冬は雲間から、日光が差し込む美しい風景などを展望台カフェからご覧いただけます。

冬限定カフェメニューとともに、ゆったりとお楽しみください。

●冬限定カフェメニュー●

「コーヒー・ラテアート」

●オリジナルクリスマスツリーの展示●

展示期間：12月6日(土)～25日(日)

「バスク風チーズケーキ・冬のデコレーション」

(2F カフェ・3F 展示休憩室)

販売期間：12/6(土)～2/1(日)

価格：500円



◆定休日：月曜、年末年始（12/29～1/3）

◆時 間：カフェ 10時～15時

オーダーストップ 14時30分

展示休憩室 10時～16時

(12/1～2/28)



@CAFEEKASAYAMA



12月～1月の予定

○geoとも（萩ジオ友の会）定例会 12月20日（土）10:00～15:00 場所：未定 内容：室内で定例会を行い、萩城下町でのジオ散歩も予定 参加：会員のみ限定 主催・問合せ：geoとも（中西 080-8747-9383）

●萩ジオパーク 食と大地の研究所～お米の味は産地で変わる？阿東のお米食べ比べ～ 12月21日（日）11:00～12:30 場所：阿東地域交流センター篠生分館 内容・参加方法等：上記参照 主催・問合せ：萩ジオパーク推進協議会（0838-21-7765）

わっきー教授のつぶやき

「がんばれ！半田くん」の解説記事として書いてきた『わっきー教授のつぶやき』ですが、第92話と第93話が掲載された「萩ジオパーク推進協議会だよりvol.128」（10月31日発行）に掲載できず、ひと月遅れで掲載することになりました。

さて、今回の「がんばれ！半田くん」は、半田くんたちの修学旅行の話でした。半田くんたちは、ついに6年生になり、修学旅行に出かけることになりました。行き先は、熊本県の「阿蘇ユネスコ世界ジオパーク」と大分県の「おおいた姫島ジオパーク」です。どちらも、萩ジオパークのテーマでもある、『マグマ』がメインテーマとなっています。

阿蘇山は、世界有数の活火山です。今年の7月4日には、噴火警戒レベル2が発表され、火口から概ね1kmの範囲は立入禁止になりました。現在は噴火警戒レベル1に引き下げられて、火口に立ち入ることができるようになりました。しかし火山ガスが発生しているため、一部立入制限があります。同じ活火山でも、笠山のように自由に火口に立ち入ることが出来る訳ではありません。阿蘇山は、東西約18km、南北約25kmの世界有数の大きさを誇るカルデラが特徴です。約27万年前から約9万年前の4回の巨大噴火によって、火山の山体が崩壊・陥没して形成されました。カルデラの中には、約5万人の人が暮らしています。約9000万年前に形成された萩ジオパークの佐々並カルデラは東西約13km南北約12kmですから、それよりかなり大きいことが分かります。

姫島は国東半島の沖にある小さな島で、大分県東国東郡姫島村が「おおいた姫島ジオパーク」を運営しています。約200万年前から60万年前頃までに形成された地層群と約20万年前から始まる火山活動による火山岩や火山性の地層によって構成され、溶岩ドーム、火口地形、火砕丘などの貴重な自然の造形を観察することができます。なかでも黒曜石は有名で、石器として九州全域や瀬戸内海西部の各地で利用されていました。観音崎の黒曜石は天然記念物に指定されています。昭和30年代に始まった車海老の養殖は、島の主要産業に発展しました。訪れると、美味しい車海老料理を堪能できますよ。

